

サステナジー

多品種対応型ロボ

マルチ水抜き穴や株元除草、監視に

サステナジー(株)は、東京
都港区には、2019年
からマルチを畝間にまた
いで自律走行し、複数作
業をこなす多品種対応型

週刊農機新聞2025年12月16日号11面

ロボットの開発を進めて
いる。開発は芝浦工業大
学の大谷拓也研究室と早
稲田大学の高西淳夫研究
室が担い、今年から量産
化やシステム開発、保守
体制を担当するイクシス
が参画。さらにソニーの
aibo開発に携わった
藤田雅博氏が顧問として
助言を行う体制が整った。
実証は長野県トップリ
バー(レタス)、ベジア
ーツ(パクチー)、神奈
川県いかす(雪下人参な
ど)、札幌市I Love
ファーム(ブロッコリー)
の協力農場で進める。
初年度にナスの収穫
作業のロボット化に成
功。21年度からは播種
(種団子)、剪定、収穫
まで対応し、24年度は協

力農場での実証試験を
開始した。現在はパクチ
ー、レタス、玉ねぎ栽培
で、マルチの水抜き穴や
株元除草、播種、見回り
監視などに活用。来年度
は稼働時間や障害物停
止など現場トラブルを
洗い出し、27年度の製品
化を目指す。「最初から
完璧を目指さず、7割で
も自動化できれば十分
という声が多い。人の3
倍遅くても1日18時間
以上稼働し、人手不足を
補いたい」と話す。

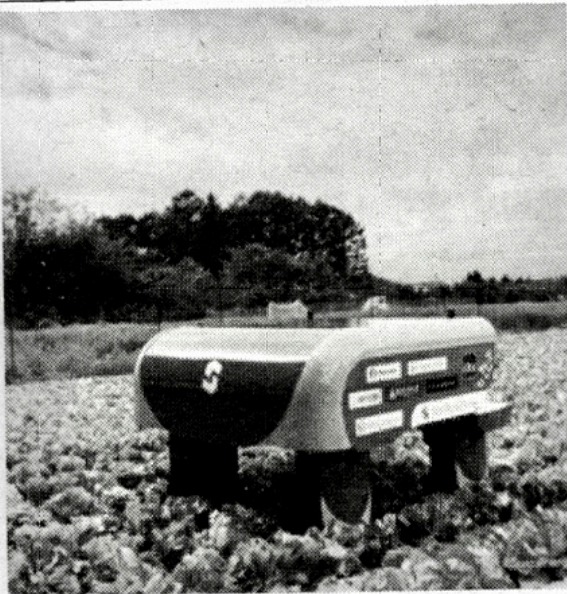


プロジェクト全体を統括する
同社の柳本副社長

【ロボットの特徴】

電動で、各圃場に太陽
光発電ステーションを設
置。レタス圃場では1枚
2500平方メートルを想定す

る。4輪構成に旋回軸を
持ち、不整地対応でトレ
ッド幅も可変。ナビはG
NSSと3D-LiDAR、
作業系は独自開発の
5軸アーム、ユニット交
換で多用途対応。
カメラと深層学習AI
で作物と雑草を約95%識
別し、除草や播種が可能。
将来は生育診断や病害虫
予測も視野に入れる。価
格は本体1台500万
円(税別、設置・ガイダ
ンス込)、月額基本料は
1万円を目指す。



マルチの水抜き穴や株元
除草、見回り、播種など